

2016年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2016年12月4日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 川 染 三 郎
鴻巣市東1-1-27
<http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/>
印刷所 (株)シャローム印刷

中学生・KKS・青年キャンプ報告

所沢みくに教会 最上久美子

た。

埼玉地区の中・高・青年キャンプが今年も八月十一日(木)十三日(土)に、長野県佐久市にある信州バイブルキャンプで開かれました。青年部も加わるようになつて四年目です。青年たちはちよつと年上の先輩として中高生をリードしてくれますし、中・高を卒業し青年となつて参加しているメンバーも多く、中学生・KKSから青年部への良い流れが定着しつつあります。

今年は、十四教会伝道所から五十八名(中学生十五名、高校生九名、青年十八名、引率八名、委員八名)の参加でした。今回のキャンプでは、「イエスさまは誰のために」とのテーマで、イエス・キリストの十字架と復活の場面(ルカ二十二章・二十三章・ヨハネ二十章)を学びました。講演を聞く形ではなく、森淑子牧師(委員)のリードの下に自分で聖書を読んで黙想することから始めまし

次に、中学生・高校生・青年の三グループで各章を分担し、イエス・キリストの気持ち、弟子たちやマリアをはじめとする登場人物の気持ちとその変化を考え、掘り下げ、それを劇にするワークショップを行いました。三日目のワークでは、皆で物語を振り返り、物語から何を感ずるだけ多くの人に話してもらいました。イエス様は「わたしのために」と、参加した一人ひとりが感じ

(教育委員会委員)



前回、カラシ種のことを書いた直後、あのカラシは「キダチタバコ」であると教えられました。さらに、二〇〇八年五月に神戸市環境保健研究所の分析により、キダチタバコの葉からアナバシンという毒素が検出されていたことも判りました。有毒植物とは知らず、紹介したことをお詫びいたします。

すでに、当教会のキダチタバコの木と種を廃棄しました。「からしの木」のつもりで「キダチタバコ」を育てている方は花の鑑賞に止め、葉を食べないようにしてください。

なお、ウキペディアによれば、キダチタバコより種はかなり大きくなりますが、「地中海沿岸が原産地」「歴史は三〇〇〇年前から」という「クロガラシ」こそ、主イエスのたとえのカラシらしいことが判りました。

当教会では、「クロガラシ」を「主イエスのたとえ話のからし」として位置づけ、チームで研究いたします。かつてベツレヘムで入手したクロガラシの種から栽培できましたら当教会のホームページで報告したいと思つてます。(中村)

■中学生Aくん

初めての中学生・KKS・青年キャンプに参加し、他の教会から来た人などたくさんいて仲良くできるか心配だったけど、話しかけてくれたり遊んだりして仲良くなることができました。

聖書を読んでイエス様のこととがよくわかりました。劇を見て心に残った言葉があります。それは「見なくても信じなさい。」という言葉です。僕は見ないと信じられないので、見なくても信じられるようになりたいと思いました。

キャンプファイヤーやワークシヨップなどイエス様のことを思いながら、とても楽しくできました。ご飯もおいしく、フリータイムも楽しかったです。



■キャンドルサービスでは悩んでいる気持ちなどを分かち

合、自分にもすごくわかる気持ちもあり、みんなも同じ気持ちを抱えているんだと思いました。

このキャンプで普段読んでいる聖書の箇所でも深く考えるところが多くあり、考え直してしまいました。僕はイエス様は何をしたか分かりませんですが、イエス様は僕たちのために十字架にかかってくださったので感謝していろいろと思いました。これから、もし困っている人がいたらイエス様みたいに助けていこうと思えました。

■高校生Bさん

一番心に残ったことは、キャンドルサービスで聴いた証です。人の悪いところを見ると、そこばかり気にしてしまう私なので、「自分が嫌いだと思っている人でも必ず良いところがあり、その人を好きになれる部分もある」というのを聞いてとても心に刺さりました。本当に本当に証の時間は、毎回考えさせられて良い刺激になります。

そして、これも毎回思うことですが、キャンプにいるみんな

はとってもフレンドリーで親しみやすく、何をしても楽しくて大大好きです感謝の気持ちでいっぱいです。自然に囲まれているところで、いつもはあまりしないことをするの新鮮な感じで、嫌なことなどを忘れられます。今年も参加できてよかったです。来年も参加したいです！



■青年Cさん

……前略…… 活動の中で思い出に残ったのはやはり劇でした。劇を一日で完成させることって可能なのか、不完全燃焼で終わってしまうんじゃないかと心配していましたがそれは杞憂に終わりました。一緒にやれた青年のみなさんの発想と行動力ってすごいです。

劇をやるのは何年ぶりかしらと思っただけで、打合せしながらみんなので一つの劇を

作り上げていく過程がずっと楽しくて、一緒に加わってやれたことが本当に嬉しいです。そして、劇にすることによって、その時のイエス様の想いや周りの人たちの行動とその時思っていたことがリアルに想像できました。

高校生たちの劇で、イエス様がゴルゴタの丘を登って十字架につけられてしまうのを見て、こんなにイエス様の苦しみを想像できたことはありませんでした。でも、そのおかげで私たちは赦されている。赦されるってどういうことか言葉にするのは難しいけれど、自分は生きていていいんだと思えます。



私はお弟子さん役をやってみて、何故あれほど好きだったイエス様が言っていたことを信じていることができなかったらどうだろうと、何度も思いました。

た。結局、私たちは自分の目で見なければ信じることはできないのか、……。だけど、他人のこ、目には見えないものを信じられるとき、純粋な心を持ったと言えるといます。そんな人になれるように努力していきたいです。



証の時間はロウソクの光を見ながら、話を聞いていて涙が出てきました。私はもともと話すことが苦手で、思っていることを言葉にするのも苦手だし、怖くて胸の内を誰かに打ち明けることもありませんでした。でも、自分の想いを人に伝えることって大事だし、自分を作る上で大切なんだなと思えるようになってきて、最近ようやく言えるようになってきました。今回、うまいへたは関係なしにあの場で話せてよかったです。……略……

就職おめでとうございます

日野原記念上尾栄光教会
長橋 和彦



埼玉地区に
迎えて頂き、
感謝致します。

「キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださる」(フィリピ一章六節) 神に信頼し、教会に、人々に仕える者でありたいと願っています。宜しくお願い致します。

家内(晴子)が関東教区で伝道師の准允を受け五年、天に召されて四年余になります。埼玉地区の諸先生にはお祈りとご支援を頂き、感謝しております。病床で語れぬ同師最後のことは、短く叫ぶ一言でした。「神殿(教会)を建てるために上って行くとした(立ち上がった)。(口語訳・エズラ記一章五節) 今、教えられます。諸先輩は、そのなされた宣教の働きが、多大の労苦にも拘わらず、実の大半を見ることになかった。むしろ後の教会に譲られ、御国に凱旋された。教会に召された者として諸先輩に学び、神の愛の摂理に委ね、歩ませて頂きたいと願っています。

報告

十教師一泊研修会

国際愛伝道所 許 昌範

七月十八日(月)〜十九日(火)に地区教師一泊研修会が別所沼会館ヘリテイジ浦和で行われました。テーマは『説教』について、講師は平野克己先生(代田教会牧師)でした。参加者は三十四名・二十八教会でした。

講演の最初にキング牧師の説教を映像で見ました。説教の前半では、キング牧師は原稿を見ながら説教を語りましたが、後半になると原稿を見ずに、語りました。原稿を読んでいる時には会場はざわざわしていましたが、原稿を読まないで語り出した時、会場がざわつかず一つになったことを平野先生は話されました。

二日目の講演では、説教をよく聴いている信徒たちに対して、どのように言葉を読むのかを語られました。平野先生は神が教会に対して何をしようとしているのか。出来事を起こそうとしている。加藤常昭先生は聖書から黙想を牧師たちに伝え、黙想という言葉は定着し

た。しかし、平野先生の考え方は黙想から説教へが課題であると語られました。黙想が豊かにされ、その黙想をどう説教に生かすのか。その大切さを語られました。

私たち牧師は、説教の準備のために原稿を用意します。牧師によつては、原稿を読む方もいます。しかし、平野先生は、原稿を読まずに語つたらよいと言われました。また、説教集を見ることも大切だと語られました。加藤常昭先生、竹森満佐一先生などの説教集は、説教原稿を準備するには大切であると語られました。



この二日間、説教について学ぶ良い機会が与えられ、参加された牧師方は皆、説教について

改めて、深く考える機会が与えられたことでしょう。私は、説教は知識で語るのではなく、心で語ることだと思えました。キング牧師が原稿を読まずに語りだしたときに会場が一つになったように。

十環境問題講演会報告

和戸教会 後藤 龍男

七月二十四日(日)午後三時より和戸教会で開催し、演題は「福島原発事故から五年―祈る、見る、聞く、語る」として講師に北千住教会牧師平沢功先生を迎えての講演会でした。参加者二十四名。

二〇一一年三月十一日の東日本大震災から五年過ぎた今、福島原発事故後の状況はどうなっているのか。

先生が準備されたレジュメをもとに取り組み等の報告がなされました。はじめに先生の牧する北千住教会では二〇一五年四月のイースターに「北千住教会平和宣言」を発表。その中で原発の再稼働に反対し、廃止・廃炉と再生可能なエネルギーへの転換を求め、原発輸出に反対することを決議しました。平沢先生が関わる項目をあ

げて話されました。①東日本大震災・原発事故後「諸宗教による祈りのつどい」を福島で開催②被災地は今③福島第一原発ゼロを目指す運動と訴訟。この中で①では二〇一六年三月十三日に宝鏡寺(樫葉町)で各宗教(基督教、仏教、神道、天理教)の祈りが捧げられた。②ではいわき市、樫葉町、富岡町、大熊町・双葉町・浪江町の今を話されたが、地域により様々な問題が起きており、放射能計測器のアラームが鳴りつばなしの所もあるという。③では関連死、原発事故による過酷な避難生活が今もある。メルトダウンした燃料の取り出しもその方法も確立されていないという。放射性廃棄物の中間貯蔵施設は双葉町と大熊町にまたがる。最終処分場になるのではとの不安も。又健康問題としての子供の甲状腺ガンの問題、原発労働者の労働条件の問題も。④では原発被害訴訟、原発差止訴訟が各地で行われている。原発は廃止・廃炉しかない。

なお講演の様子は
https://www.youtube.com/watch?v=spEDc
で見ることができます。

(社会委員会委員長)

平和を求める八・一五集会

和戸教会 後藤 龍男

第二十二回 アーモンドの会

久喜復活伝道所 山野 裕子

八月十五日(月) 午前十時から埼玉和光教会で開催。十八回目となる今年も「決断する信仰、告白する教会」と題して朝岡勝牧師(日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会)が講演。参加者は講師を含め八十四名。朝岡先生は自由民主党の「憲法改正草案(平成二十四年四月二十七日)」が志向している憲法観、国家観は復古主義であり、六項目を挙げて問題点を指摘して話された。

①立憲主義と国民主権の否定②基本的人権を否定し、個人よりも国家を優先する姿勢③天皇制国家の価値観の強要④宗教の自由・政教分離のなし崩しと、国家の宗教への介入。宗教の政治利用⑤平和主義の放棄と戦争のできる国への転換⑥緊急事態条項による全権委任法の出現。

改憲路線が現実となりつつある今、私たちは「イエスは主である」という信仰の告白が脅かされる時代が本格的に始まるという認識を持たなければならぬ、と結ばれた。

(社会委員会委員長)

業が形成されたと説明。社会が弱者に寄り添う「社会モデル」を実現する大切さを問いつつ、祈りの場としての教会と地域福祉のサービスを行う人や組織とがつながること、必要な支援が的確に行える可能性を提議した。教会には誰にも開かれた居場所があり手を取り合って活動したいと。



開会礼拝は「イエスの名によつて立ち上がり、歩く」(ヨハネ三章一〜十節)と題して私が説教しました。

続いて石川榮一牧師が家族の話を変えて、障がい者を中心に、つながりの意識を深めようと導き、二人の発題者を紹介されました。

最上義氏は教会で関わった精神疾患をもった青年の自死に出会って決意して、就労移行支援事業所「シャローム所沢・和光」を開設。精神障害者・精神疾患者の就労など社会進出並びに復帰を促す様々な支援をされている。

引地達也氏は東日本大震災の被災地支援で牧師達と出会い、その経験から、キリスト教の考えとのつながりにより事業が形成されたと説明。社会が弱者に寄り添う「社会モデル」を実現する大切さを問いつつ、祈りの場としての教会と地域福祉のサービスを行う人や組織とがつながること、必要な支援が的確に行える可能性を提議した。教会には誰にも開かれた居場所があり手を取り合って活動したいと。

(アーモンドの会委員長)

中学生・KKS 秋のフェスタ

川越教会 鈴木林太郎

「久しぶり、元気だった？」夏のカンパから一ヶ月あまり経った秋の香り漂う日に、久しぶりと初めましての顔ぶれが共にひとときを過ごす。

十五教会、五十人のメンバーが、会の始めから終わりまで自由に交流する。

開会礼拝が始まる前から既に交わりの濃い時間を過ごし開会礼拝で気持ちをととのえ交流タイムへ。無垢に楽しむ中学生や高校生、ムードメイクしようと励む青年たち、それぞれが役割を担い、ひとつの「楽しく賑やかな」空間を作り上げている。



交流タイムが終わると、食事づくりと文集づくりへと移行し、思い出話や他愛もない会話が飛び交う。ひと通り食事づくりが落ち着くと、皆で折り食事をとり、頃合いでスクリーンで思い出を振り返る。様々な感情がある中、観ているメンバーもいれば談笑しているメンバーもいる。あれやこれやと、あっという間に解散の時が迫り、それぞれが再会を約束し、会がおひらきになる。

数年前から、中・高生世代だけのキャンパに、青年のリトリートがドッキングしたこと、中・高生世代と青年世代との交わりが今や恒例になっている。秋のフェスタでもそれは健在で、その様子は実に微笑ましいものである。彼らがその時にしか感じるこのできない感情や内なる想いを話せるその場を、最終的には神さまに委ねて、そつと見守り続けていきたい。生きるリアルな若い感情を、大人たちの経験や価値観で潰したくない。

最後に、このフェスタに彼らを送っていただいた教会の皆さまに感謝します。今後の彼らの成長を神さまに委ねて。

(教育委員会)

第二十回

伝道と賛美の集い

熊谷教会 大坪 直史

十月十五日(土)、良く晴れた秋空のもと、午後二時から四時まで毛呂教会(澁谷弘祐牧師、澁谷実季牧師)にて埼玉地区伝道委員会主催「第三十回伝道と賛美の集い」が開かれました。



今回は、武蔵野音楽大学卒、日本オルガニスト協会会員で、現在、金沢を拠点に、金沢教会オルガニストとしてもご活躍中の黒瀬恵氏をお迎えし、「ハルモニウム・オータムコンサート」風がはこぶ祈りの音」と題して、行われました。

第一部において、黒瀬氏により、集いの題名にも記されたリード・オルガン「ハルモニウム」が奏でられますと、ほぼ満

席状態となった毛呂教会の礼拝堂が、きよらかな空気に包まれるのを感じました。聴衆は、黒瀬氏が奏でるP・チャイコフスキーやL・ベートーベンといった著名な作曲家の曲に静かに耳を傾け、演奏が終わる度に大きな拍手を送りました。

また、今回のコンサートでは、ただ曲を演奏していただくだけではなく、「絵本とオルガンのコラボ」なる演目も披露されました。絵本『ひかりひかり』(絵・作:細川理衣)が正面のスクリーンに映し出され、澁谷弘祐牧師の朗読と、黒瀬氏作曲のBGMによって、幻想的な絵本の世界が展開されました。



第一部において、黒瀬氏により、集いの題名にも記されたリード・オルガン「ハルモニウム」が奏でられますと、ほぼ満

した。メッセージを通して、自分自身の今後について(救いについて)真剣に取り組む姿勢と、友達を作ること(主イエスが友となつてくださること)が非常に重要なのであるという恵みが、明らかにされました。

メッセージの後、「みんなで歌おう」のプログラムで、讚美歌二九八番「やすかれわがこころよ」、讚美歌第二編一五七番「この世のなみかぜさわぎ」、讚美歌三二二番「いつくしみ深き」を賛美しました。



歌詞は古い言葉で分かりにくいものもありましたが、澁谷弘祐牧師は歌詞を分かり易く解説してくださいました。特に「いつくしみ深き」の歌詞「友なるイエスは」は、シヨート・メッセージの内容と繋がるところでもあり、印象的でした。

十小規模教会

伝道所懇談会

地区委員長 川染 三郎

黒瀬氏は、演奏の合間に、リード・オルガン「ハルモニウム」の特徴や仕組み、その貴重さについて教えてくださいました。リード・オルガンは電子オルガンとは異なり、ペダルで空気を送る、袋に空気を溜める、その空気を送り出してリードを震わせて音を出すなど、人間の肺呼吸や声帯の仕組みと似ているところがあること。電子オルガンは音が大きくて良いが、無機質で機械的であるのに対して、「ハルモニウム」は音がそれなりしか出ないが、大変ナチュラルな自然体の音が出る、人に優しい音が出るというところをお話してくださいました。

埼玉地区では、「福音の前進に仕える」務めを果たすため「伝道協力協議会」を設けました。これはこれまで地区委員会が主催していた「伝道所・集会所懇談会」を発展的に解消し、現住陪餐会員が概ね二十名以下の教会、伝道所を対象にした「伝道協力協議会」を地区伝道委員会の主催によって行うことになりました。

また、黒瀬氏は、ご自身がオルガニストになった背景に、同じく教会オルガニストであったお母さまの「神さま、このお腹の子をオルガニストに!」という祈りがあったということを証ししてくださいました。お母さまの祈りと主の御導き

十月三十日、埼玉新生教会を会場にして第一回が行われました。伝道委員会ではあらかじめアンケート形式で教会の現状報告をいただき、参考資料としました。このアンケートに添えたのは、桶川伝道所、久喜復活伝道所、加須教会、鳩山伝道所、埼玉中国語礼拝伝道所でした。そして出席したのは四教会・伝道所でした。

参加者五十一名、教会関係者十九名(七教会)

伝道委員会が良い準備をしてくださったので、各教会・伝道所の現状がよくわかりました。今後もこの「伝道協力協議会」を重ねて、伝道のための連帯と協力を形成したいと願っています。

(伝道委員)

十CS生徒大会

森下 裕匡

「おはよう！今日はよろしくね。」「久しぶりぶり、元気だった？」

十月十日(月・祝)に教育委員会が主催する第四十九回CSせいと大会が滑川町にある国営武蔵丘陵森林公園にて行われました。十時に南口ゲートに集合。そこから運動広場へ約二十分かけて移動し、受付の後、開会礼拝が行われました。



開会礼拝では大坪直史牧師(熊谷教会)が説教をされました。ヨハネによる福音書六章三十五節をもとに、食べることは大事ということから命のパン

について話をされました。その後、教会紹介とクイズが行われました。参加教会が自分の教会に関する問題等を出しました。結構難しかったせいとか、全問正解者は一名だけでした。続いて昼食と自由時間となり、このころには皆打ち解けて、自分の教会以外の人と昼食をとり、自由時間には、子供たちは、ぼんぼこマウンテンという遊具等で遊んでいました。

次のプログラムは、野澤委員進行により、交わりの時がもたれました。まず〇×クイズ、次に教会へ行こうよ、その次に木の中のリス、四番目にじゃんけん列車、そして最後にだるまさんが転んだをやりました。総勢約百人でのだるまさんが転んだを私は初めてやりました。楽しい一日のプログラムも無事に終了し、来年の再会を約束し、別れました。
*九十五名参加。来年は一人でも多くのCS生徒をお送り下さい。

十教会音楽講習会

埼玉新生教会 吉田みち子

来年の宗教改革五〇〇年前に「ルターのコーラルに基づくバッハのコーラタータ」(コ

ラールはドイツ語の教会歌、コーラタータは器楽伴奏を伴う多楽章の歌の意)と題した講習会の二回目を、十一月五日(土)に上尾合同教会において開催いたしました。



講師は前回に引き続き、音楽学者の礒山雅先生でした。

今回のテーマは、時期に合わせ、讚美歌21編の二二九番《いま来たりませ》。

まず参加者全員で歌い、松山興志雄先生(引退牧師)の開会祈禱の後、講習に入りました。《いま来たりませ》は古くから様々な編曲で歌われており、はじめにそのメドレーをCDで聴き、それから原曲である四世紀のラテン語讃歌、そしてドイツ語コーラル誕生の歴史が紹介されました。

十二世紀からドイツ語訳の試みが何度もされていて、オリジナルに近いルターの八節からなる詞が定着したそうです。

原詞にある「異邦人の救い主」には当時のキリスト者の、異邦人伝道に対する深い思いがあると伺いました。

バッハの先生にあたるベームのコーラタータを聴き、休憩を挟んでいよいよバッハの作品を聴いていきます。

《いま来たりませ》は待降節第一主日に歌われるコーラルで、まずその日の聖句を先生が朗読してくださいました。現存している三作品の紹介をされ、なかでも全曲がこのコーラルに基づいている第六十二番はとくに詳しく解説をいただきました。ながら、全曲聴くことができず。この曲はライブツイヒで一七二四年に初演されたそうです。原詞のままのコーラルが初めと終わりにあらわれ、中間はコーラルの各節に基づき作詞され、様々な形式で表現されています。喜ばしい詞には軽快な曲想、力強い詞には低音を用いるなど、詞の内容が一層深く伝わりました。

美しい音楽と、興味深いお話で豊かな時を過ごせました。参加者からの質問にも詳しくお答えくださり充実した学びとなりました。感謝いたします。

*十六教会三十三名の参加。
(教会音楽委員会)

お知らせ

教会HP開設のお手伝いを致します！

伝道の最先端となるHPを、地区HP委員会のご奉仕で開設することができます。費用は教団の伝道支援金を活用します。希望する教会は以下の要綱でぜひ、お申し出ください。

- *地区委員会対象教会…地区の現住陪餐会員二十名以下の教会・伝道所
- *運営費…(レンタルサーバー代) 一年目二九一六円、二年目以降二二九六円(教会負担)
- *製作費…五万円(伝道支援金を支給)
- *交通費…実費(HP委員が当該教会に向いて作成相談します)(教会負担)
- *問い合わせ先…地区委員会(田中)

尚、支援金の対象外の教会でも、希望があれば自己負担でお引き受けすることができます。遠慮なくご相談ください。

特集

地区通信委員会は、各教会の「今・そして課題と展望」をご紹介いただきました。お互いを身近に感じ、知り、「主にある交わりを深める」一助になることを期待しています。

*** **

十 教会の歴史を刻む

春日部教会 白石多美出

春日部教会は、創立二二一年を迎えました。旧市街地が発展してきて、現在のようにになりましたが、住居表示は「粕壁」となっています。



長い歴史の中で、唯一続けたきたものの一つに月報「荒野の声（あらののこえ）」があります。通算四十七年間も発行してきました。途中、二か月に一回

という時もありましたが、今は、毎月第一主日に発行をするように心がけています。

ここ最近の傾向としては、様々な事情によって、礼拝に出席できない人たちに、教会の現状を伝える誌面となっていて、これを読んでいただくこと、教会の歩みがわかると思いますが。

「荒野の声」は、単に「報告書」に留まらず、読みごたえがあるように、聖書研究の連載ものなども掲載しています。

「巻頭言」に始まり、「役員会報告」は役員会でのようなことが協議されたかが簡潔な文章で書かれます。

「各部集会報告」「各委員会報告」「紫苑（しおん）の会報告」これは、地域に開かれた活動で女性たちは、沢山の手作り品を作って楽しんでます。男性たちは、囲碁をして交流を深めています。

この月報は、教会員のみならず、伝道用のツールとしても用いられています。

教会が与えられた使命を果たすことも願っています。



十一 「福音よ届け」と祈りつつ

鳩山伝道所 藍田 修

一九九一年、鳩山伝道所は、今は亡き広瀬泉造先生の開拓伝道から出発しました。

一九九四年、東所沢教会に親教会になっていただき、「鳩山伝道所」として承認され、現在に至っております。

私どもの伝道所は、次の目標を掲げております。

- ① 礼拝を守ること。② 伝道の業に励むこと。③ 主にある交わりを深めること。④ 諸教会との交流を図ること。⑤ 地域に奉仕すること。⑥ CSを守ること。⑦ 献金に努めること。



伝道にあたっては、毎月二部部の『こころの友』を鳩山町の約五千戸にローテーションで

個別配布しています。「福音よ届け」との思いをもって配布していますが、主日礼拝の出席人数が数人といった場合が殆どで、一層さらなる働きが求められていることを痛感しています。

ところで、今年度は、教会規則（準則）の制定をめざし申請しました。

教会は、主イエス・キリストの体ですので、教会は主の御心に従います。その際、何をもちて主のみ心とするのかということに対して、教会総会や役員会を組織し、その会議の決議をもって主の御心とするなど、皆で学び合いの中で確認しつつ申請の運びとなりました。

以上、めざすことに対してなかなか内実は伴いませんが、主のご栄光をあらわすため益々働いてゆく所存です。

十二 恵みに共にあずかりつつ

鴻巣教会 川染 三郎

道が始められました。また、付属英和幼稚園は一九四七年に設立されています。

鴻巣教会は現任陪餐会員が二十五名。高齢者が多く、信仰の継承者を育てるのが急務です。そのため、付属英和幼稚園がキリスト教幼児教育を充実させ、幼子に福音の種を蒔くと、そして保護者にキリスト教幼児教育を理解していただき、信仰へと導くことです。また、幼稚園には六十九年の歴史があり、福音の種を蒔かれた方が多くおられ、キリスト教幼児教育に信頼があり、期待されています。

家族伝道を進めています。大人と子供の合同礼拝をしています。ことに収穫感謝家族礼拝では合同礼拝と、子ども祝福式を行っています。また、幼稚園の保護者を対象にした「ばいぶるタイム」を木曜日におこない、キリスト教信仰を解き明かし、幼児教育についても話し合っています。

その他にも伝道のプログラムを実行しています。しかし、その伝道が実を結ぶために牧師と信徒とがキリスト・イエスの恵みに共にあずかり、力を合わせてその恵みを証言するよう志しています。

地区委員会報告

二〇一六年度第三回委員会

日時 七月十四日(火)

会場 埼玉新生教会

出席 十人

陪席 無

主な報告

●地区内の教会・教師の報告

○就任就任式執行

・浦和別所 澤田石秀晴(補)

・七里 小林則義(正)

・越生 江田めぐみ(正)

・北本 温井節子(正)

○就任式執行予定

・羽生伝 伊早坂貴宏(補)

・本庄旭 西上信義(正)

・菖蒲 東海林昭雄(正)

・埼玉大通り 川添義和(正)

○就任式執行予定

・愛泉 正田義也(補)

●会計報告

四月二十九日から七月十三

日分

●各委員会・各部報告

○主な協議事項

一、(仮称)小規模教会伝道所懇

談会について

協議の結果、集会名称を「伝

道協力支援のための協議会」

として計画することを承認

した。伝道委員会より、埼玉

地区小規模教会の信徒数の

現状と推移についての資料

をまとめているとの説明が

あった。また、伝道をテーマ

とした講話を組み込むこと

の提案を受けた。引き続き実

施に向けて企画立案を伝道

委員会に付託することを確

認した。

二、地区総会付託議案に関する

件

○議案第七号 地区会計監査

選任の件 次回協議。○議案

第八号 地区総会議事録承

認に関する件 「二〇一六年

度埼玉地区総会議事録」を

承認。○議案第九号 次回地

区総会会場及び日程の件

次回協議。

三、最寄り区教師会について

今後、地区主導で最寄り区ご

との活動を活性化していき

たいので、教師委員会に検討

をお願いした。

四、社会委員会への委員派遣に

ついて

来年度は必ず教師の派遣が

実行できるように協議を始

める。最寄り区ごとの選出が

望ましいとの意見が出たが、

まずは社会委員会が円滑に

活動できるように話し合い

を進めていく。他の委員会に

ついても委員が固定化して

いる状況が散見されるので、

改善に向けた取り組みを行

いたい。

五、その他

・埼玉地区の歴史編纂をされ

ている野村委員より、宣教1

00周年記念で作成された

「荒野の声」の復刻を望んで

おられる旨の発言があり、次

回委員会で当該書籍を回覧

することにした。

・「埼玉地区ハンドブック」

の改定版作成について提案

を受けた。現在使用している

冊子の情報が古くなり、その

後に開設された教会・伝道

所も複数あることから、必要

性について意見が一致した。

継続審議とする。

二〇一六年度第四回委員会

日時 九月十六日(金)

会場 埼玉新生教会

出席 十人

陪席 一人

主な報告

●地区内の教会・教師の報告

○就任式執行

・羽生伝 伊早坂貴宏(補)

・本庄旭 西上信義(正)

・菖蒲 東海林昭雄(正)

○就任式執行予定

・埼玉大通り 川添義和(正)

○就任式執行予定

・愛泉 正田義也(補)

・羽生伝 伊早坂貴宏(補)

●会計報告

七月十四日から九月十五日

分

●各委員会・各部報告

○主な協議事項

一、「伝道協力支援のための協

議会」について

協議の結果、集会名称を「伝道

支援協議会」に変更すること

を承認した。伝道委員の奥田

兄より立案の説明を受けた。

また、一九八八年に創案され

た「埼玉地区宣教構想」につ

いての発題があり、再認識す

るべきとの見解に達した。こ

の集会では、小規模教会(現住

陪餐会員二十名以下)が実践

的な伝道を実現できるように、

伝道協力支援金の有益な使途

を考えながら継続的な懇談を

していくことを確認した。今

後は、年度内の複数回開催を

目指したい。出席者の交通費

は支給する。

二、「埼玉地区ハンドブック」

の作成について

現在使用している冊子(二〇

〇九年度作成)の情報が古

くなり、その後に開設された

教会・伝道所も複数あるこ

とから、新たに作成すること

を承認した。作成方法、費用

等について、これから検討を

進める。

三、社会委員会委員構成につい

て

継続審議とする。

四、壮年部委員派遣について

地区委員長より、壮年部との

懇談結果について報告を受

けた。壮年部の意向を踏ま

え、今年度の担当を石川委員

に委嘱することを決定した。

五、委員会任期について

任期の再考については、最寄

り区の活性化を目指しながら

時間をかけて検討していき

たい。また、常設委員会の委員が

最寄り区ごとに選出されるこ

とを期待したい。現在、働き手

が少ないことは承知している

が、将来働き手が増えるよう

に地区として取り組まなけれ

ばならない。意見を真摯に受

け止め、今後も議論していく。

継続審議とする。

●閉会祈祷・末 永廣

編集後記

今号は、中・高・KKS・青

年たちの夏から秋の行事や活

動、そして各委員会が開催した

集会の様子、牧師就任の挨拶、

また、「特集」では三教会をご

紹介し、それぞれ寄稿にご協力

いただき感謝します。

待降節迎え、御子イエス・キ

リストのご降誕への備えの日々

となりますように。(茨木)